

◆アピル ケー・シーさん（ネパール 2013 年度研修生）

大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業（安藤プログラム）を終えて



夜の 7 時でした。思いもよらない時間に大学から電話があったので、その声も言葉もよく覚えています。「2013 年度安藤プログラムに合格しましたよ！」その夜、私の建築への理解、自信、姿勢、全てが変わりました。安藤プログラムの 1 か月は、私の誇りとなったのです。

安藤プログラムにおける、ディスカッションプログラムでの、東アジア建築都市研究所の所長で建築家のグンタ・ニチケ先生による科学、芸術、精神論を交えた講義をよく覚えています。ニチケ先生は今でも様々なアドバイスをくださる私の指導者的存在です。また、安藤先生からは、空間、光、自然をとおして、建築は人、社会、文化の真髄を映し出すことを学びました。さらに、他国の研修生や先生方と知識、文化を共有しながら多くの建築物を視察したことで、建築や人に対する柔軟性を高めることができました。

帰国後、4 か月間のヨーロッパ留学を経て、在籍していたネパールの大学院を卒業しました。卒業後は、国立病院や政府機関の設計に関わり、その後、設計を任せられたネパール西部のコンベンションホールは、現在建設中です。



コンベンションホール 完成予想図

2015 年 4 月 25 日にネパールで起こった大地震は、ネパールの建築、都市の全てを変えてしまいました。そこで、私はネパール建築家協会（SONA）の役員及び大学講師として、これまでネパールの建築の質の向上と都市の再建を唱えてきました。

また、設計者として、国レベルの都市設計プロジェクトに携わり、国の施行ガイドラインの作成や復興事業の査定に参加してきました。併せて、自身の建築・設計コンサルタント会社を立ち上げ、他のプロジェクトにも携わっています。



JICA プロジェクトの様子

2016 年 12 月から、設計コンサルタントとして、ネパールで行われている JICA プロジェクトにも従事し、主に災害関連のプロジェクトに関わっています。同時に、ネパール低地に位置する世界銀行出資の政府プロジェクトにも携わっています。

現在、多くの機関や団体と協力・連携し仕事をしてしていますが、今の私の建築への姿勢、自信や学びは全て安藤プログラムの 1 か月間にさかのぼります。安藤先生のように、情熱を持ち続け、周りの人々をより良い未来へと導くことのできる建築家になりたいと思います。